
こぼれた光

sama

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こぼれた光

【Nコード】

N2234Z

【作者名】

sama

【あらすじ】

・リンだけなの。ずっとそばにいてくれたのは・。

姫とお世話係の絆物語。

大切なもの（前書き）

思いついたら止まらない。

大切なもの

小さくも豊かな国ハルミキア。

世界中から行商人や大道芸人、職人達が商売にやってくる。

その国を治めるのはディール・ハルミキア王。
先祖代々この国を治める王族である。

第七代ハルミキア王には、亡くなった妻、リア王妃との間に一人娘がいた。

しかし一人娘の姿は、この国では異質だった。
薄水色の髪に、銀灰色の瞳。

亡きリア王妃も同じ血統であり、その血を受け継いだとされる。

美しくも異質な姿で不気味がられ、王妃の死は、それを忌み嫌い、王座を狙っていた現・王妃であるジル王妃による殺害ではないかも噂されている。

王の一人娘は継母となったジル王妃と、その連れ子であり一人娘と
同い年であるルードからひどい扱いを受けた。

そしてひとり、宮殿の一番小さな部屋で、毎日を過ごしていた。

はじまり

「ナナ様。ナナ様朝です。起きてください」

小さい部屋の大きな窓から射し込む光は、部屋全体を照らしていた。ベッドと机、本棚にクローゼット。

これらが、小さな部屋に置かれた家具たち。

この部屋に立ち入りするのは、食事と洗濯物、お召し物であり、それを運ぶことを任された使用人たち。

そして勉強を教えに来る家庭教師たちだけである。

「本日のお召し物でございます」

「本日の朝食でございます」

用意し、机の上に置かれた朝食と今日のお洋服。

それらを置き、使用人たちはすぐに出て行った。

「ふう…」

着替えよう。

また一日が始まる。

日が当たった自分の髪は、光に反射し、キラキラと輝く。

水の、まるで庭園にある噴水が、光に当たってキラキラときれいな
のと似ている。

嫌いではない。

でも、周りのみんなは、嫌う。

私だけだから…。

「あ、また来たのねっ」

小さなバルコニーには、小鳥たちがやってきていた。

「ちょっと待ってね。パン持ってくるっ」

朝食にいつもついているおいしいパン。

一口食べてから、残りのパンを小さくちぎって小鳥たちにあげる。

毎朝の日課で、私の楽しみだ。

少し高さがあるだけで、一歩踏み出せば、この家自慢の庭園が広が
っている。

抜け出せそうだけどなあ。

やっぱり無理かしら。

「ナナ様ー」

声が聞こえた。

「ハロル」

バルコニーから一步踏み出し、裸足のまま庭へと下りた。

この庭園を整備している庭師のハロル。

二メートル近い身長で、かっこいいし優しい人。

「あ！あつ、ナナ様いけません！はだしはだし！くっ！くっ！」

ハロルは私を嫌わない。

私は私でいられる。

本当のお兄さんみたいで大好き。

「もー。汚れちゃいましたね、足」

「えへへ」

「さ、ここまで呼んでしまつてすみません。部屋へ戻りましょう？まさか裸足で走ってくるなんて思わなかつたな」

怒らない。怖い顔しない。

そして、抱っこしてくれる。

お父さん以外で、私を抱きしめてくれる人。

「ごめんなさい」

「あはは。謝る必要はないですよ。あ、土の感触はどうでしたか？意外と気持ちいいでしょう」

「うんっ」

そしてハロルは、私をバルコニーまで運んでくれた。

そして私は、足をタオルで拭いた。

小鳥たちはパンを食べ終え、もう飛び立っていた。

「今日はもう、先生がいらっしやいますか？」

「ううん、まだ来ないよ？10時から」

「そうですか。では、お勉強がんばってくださいね」

「うん。ハロルもね」

応援？っていうのかなあ。

嬉しいね。

「ありがとうございます。あ、ナナ様」

「なあに？」

「はい。お誕生日おめでとついでいます」

今日は私のお誕生日。

そう、今日、私は11歳になった。

ハロルはお祝いです、って言って花冠を頭に乘せてくれた。

「ありがとう／＼／」

「どういたしまして」

そして庭園へと仕事へ戻っていった。

花冠。

先生が来るまでつけておこう。

はじまり（後書き）

ハロルは、いつもここにこの23歳青年のつもりです。ナナを妹のようにかわいがってます^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2234z/>

こぼれた光

2011年12月8日01時00分発行